

# 令和4年度事業報告

## 1. 推進部会活動報告

### (1) 環境共生まちづくり事例の分析・整理《継続》

環境共生住宅の一層の普及促進を目的とし、「環境共生住宅 早わかり設計ガイド/戸建住宅編・集合住宅編」で取扱いのない『環境共生まちづくり・団地』について、様々な機会における情報発信のためのコンテンツ充実化を図ることを目的に、昨年度に引き続き会員からの情報提供などにより事例情報を収集した。

また、特徴や採用されている様々な取り組み内容（要素・技術等）を分析・整理し、kkj サイトへこれら情報をアップした。

また昨年度に引き続き、実際に導入された対策内容、現在の環境の状況、計画時から現在に至るまでの各種課題などを把握するために、竣工後ある程度の期間が経過した「環境共生団地・まちづくり事例」を対象に、現地視察や計画者へのヒアリング調査を行った。

#### 【実施内容】

- ① 令和3年度に収集分析した全国の「環境共生団地・まちづくり事例」の情報を基に、竣工後ある程度の期間が経過した特徴的な「環境共生団地・まちづくり事例」（5事例）を対象に、現地視察や計画者へのヒアリング調査を本格的に実施した。これら調査内容を、「事例シート」として取りまとめ、令和3年度に立ち上げたkkj サイト内のコンテンツ「環境共生まちづくり事例データベース」内にアップした。

#### 【総括】

- ・本年度は、推進部会のメンバーからの情報を基に調査を実施した。その結果、現地調査&ヒアリング調査を計画的に行うことができた。その一方で、コロナ過のため、現地調査の参加可能人数が制限されるなど、調査に一部制限があった（事務局を中心とした現地調査+その様子をメンバーにWEB配信を行うなど工夫して実施）。
- ・次年度も引き続き、現地調査並びにヒアリング調査を継続していく予定である。その調査内容を「事例シート」として整理し、部会メンバーはもちろんkkj会員に対し広く情報共有していく予定である。

表1 「環境共生団地・まちづくり事例」の現地調査&ヒアリング調査の実施結果

| 回 | 事例名称                              | 場所      | 実施日                     | 実施方法                  |
|---|-----------------------------------|---------|-------------------------|-----------------------|
| 1 | エムスマートシティ熊谷<br>【実施済】              | 埼玉県熊谷市  | 2022年1月18日              | 現地調査+WEB配信            |
| 2 | Fujisawa サステイナブル・スマートタウン【実施済】     | 神奈川県藤沢市 | 2022年6月16日<br>2022年7月7日 | 見学ツアーに参加し<br>2回に分けて実施 |
| 3 | 台の森プロジェクト<br>【実施済】                | 宮城県仙台市  | 2022年7月14日              | 現地調査+WEB配信            |
| 4 | 黒部パッシブタウン<br>【実施済】                | 富山県黒部市  | 2022年9月13日              | 現地調査+WEB配信            |
| 5 | SMA×ECO TOWN<br>晴美台【実施済】          | 大阪府堺市   | 2022年11月15日             | 現地調査+WEB配信            |
| 6 | オガール日詰二十一区<br>[紫波町エコタウン]<br>【実施済】 | 岩手県紫波町  | 2023年1月17日              | 現地調査<br>(事務局のみ)       |

## (2) 環境共生住宅事例データベースの拡充《継続》

昨年度に引き続いて、環境共生住宅への理解・普及を目的に、環境共生住宅事例データベースの拡充を図った。掲載要件に基づき、会員企業等が取り組む新築及び改修事例を収集し、データベースに追加しホームページを通じて情報発信した。

### 【実施内容】

#### ① 新規4事例を掲載した。

会員企業から情報提供された次の4事例について、令和5年3月末にkkjサイトへ情報を掲載した。

表2 環境共生住宅事例データベースの新規事例

| 建物名称          | 所在地     | 施工年   | 事業者名                      |
|---------------|---------|-------|---------------------------|
| ZEH21         | 石川県金沢市  | 2018年 | 積水ハウス株式会社                 |
| プライムメゾン浅草イースト | 東京都墨田区  | 2022年 | 積水ハウス株式会社                 |
| セキュレアシティ藤沢翼の丘 | 神奈川県藤沢市 | 2020年 | 大和ハウス工業株式会社               |
| F邸            | 東京都練馬区  | 2020年 | ミサワホーム株式会社<br>ウィズガーデン株式会社 |

### 【総括】

- ・会員企業の協力及びkkj活動を通じて、地域性に配慮した特徴的かつ先導的な新築事例を収集し、情報発信することができた。

## 2. 調査研究部会活動報告

### (1) 環境共生住宅推奨部品を組込んだ「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の検討及び作成《継続》

「品確法」に基づく住宅性能表示制度の断熱等性能等級の上位等級である等級 5 と等級 6、7 創設、及び一次エネルギー消費量等級 6 創設に伴い「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の改訂作業を行った。

検討内容は、両ガイドの更新の予定や作成方針、掲載内容、レベル設定の方針などである。「お勧め建材ガイド」は、6 地域編、7 地域編の改訂を検討し、6 地域編の原稿を作成した。また、「お勧め設備ガイド」は、全地域を対象とし、掲載設備機器の種類を検討した上で、6 地域編の原稿を作成した。

#### 【実施内容】

- ① 住宅性能表示制度の改訂に伴い、全地域横断的に、「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の更新の予定や作成方針、掲載内容やレベル設定の方針などについて検討を行った。検討の結果、今後のガイドの発行は、地域ごとに「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」をセットで発行することを原則とし、温暖地、寒冷地、準寒冷地の順で行うこととした。
- ② ガイドの作成方針は、省エネルギー性能がより高いレベルの住宅を目指すための情報提供とし、「はじめに」を中心に文章を加筆修正した。また「建材ガイド」と「設備ガイド」の両方をご覧いただくことで、目指す住宅性能のための断熱仕様の組合せと設備仕様の組合せがわかるようなフローを作成した。
- ③ 「お勧め建材ガイド」6 地域編、7 地域編について、断熱等性能等級 6 に対応するレベル 3 の仕様の見直し、同等級 7 への対応の検討、それらに伴う外皮性能の再計算、掲載製品の再調整を行い、改訂原稿を作成した。外皮性能のレベル設定は下記の 3 段階とした。
  - ・レベル 1：断熱等性能等級 4 (H28 年省エネ基準)
  - ・レベル 2：断熱等性能等級 5 (誘導基準、ZEH 基準〔強化外皮〕)
  - ・レベル 3：断熱等性能等級 6 (ZEH+要件〔更なる強化外皮〕)また k<sub>kj</sub> として推奨する外皮性能は、レベル 2 とレベル 3 とした。
- ④ 「お勧め設備ガイド」は外皮性能の変更に伴い一次エネルギー消費量の再計算を行った。設備の仕様の組合せのグレード設定は、グレード 1、グレード 2 とした。一次エネルギー消費量の算定における外皮性能のレベルと設備仕様のグレードの組合せは、下表の通りとした。

| 【建材ガイド】<br>外皮性能のレベル |   | 【設備ガイド】<br>設備仕様のグレード |
|---------------------|---|----------------------|
| レベル 1               | + | グレード 1               |
| レベル 2               | + | グレード 2               |
| レベル 3               | + | グレード 2               |

#### 【総括】

- ・「お勧めガイド」の初版作成から 6 年が経過し、当初の目的であった省エネ基準を満たすための情報提供だけでなく、より高いレベルの住宅を目指すための情報提供に移行することが望ましいという議論がなされた。そこで、「建材ガイド」「設

備ガイド」の導入部分について、建築物省エネ法だけではなく住宅性能表示制度や ZEH、LCCM 住宅等の内容も踏まえて、kkj として望ましい住宅性能を積極的に提案するガイドに方向性を定め、大幅に文章を加筆修正し、構成を改訂した。

## (2) 環境共生住宅推奨部品データベースの運営・管理《継続》

推奨部品の登録及び利用の拡大を目指し、会員企業から新規に登録の希望がある部品についての情報収集等を行った。また、新たな推奨部品の登録に向けた検討を行うとともに既存部品分類の見直しを行い、部品データベースの充実化を図った。

### 【実施内容】

- ① 推奨部品の普及を目指し、部品分類やホームページ（環境共生住宅推奨部品データベース）掲載内容等を検討した。
- ② 新規部品として「家庭用リチウムイオン蓄電システム」、「輻射（放射）冷暖房パネル」、「カーテン付き付属部材」の 3 製品について検討した。
- ③ 新規部品の登録に合わせ、新規部品分類として「家庭用リチウムイオン蓄電システム」を追加した。また、「輻射（放射）冷暖房パネル」は既存部品分類の「暖冷房機器」の中に推奨基準を追加した。
- ④ 「カーテン付き付属部材」については、既存部品分類の「日射調整部材」を「開口部付属部材」と改めてその中に推奨基準を追加した。また、部品分類の見直しを行い、「開口部材」という大分類を設け、その中に小分類として「開口部材（窓）」、「開口部材（玄関ドア）」、「開口部付属部材」を設けた。
- ⑤ 新規部品分類の追加に伴い、「環境性能の強化・拡充項目」を「環境性能等の強化・拡充項目」と改め、「XI レジリエンスの向上」を追加した。また、「IX ユーザーのニーズに応える安心・安全な衛生環境の提供」を「IX ユーザーのニーズに応える安心・安全の提供」に改めた。
- ⑥ 既存部品分類の見直しを行った。「お勧め設備ガイド」との整合性を考慮し、既存部品分類の「給湯機器」について、部品分類名称を「給湯・給湯暖房機器」に修正し、推奨基準の見直しを行った。
- ⑦ 新規部品分類の追加と既存部品分類の見直しに伴い、環境共生住宅推奨部品の「概要と推奨基準の考え方」を修正した。
- ⑧ 既存部品分類について 12 製品を追加し公開した。（2023 年 3 月末）
- ⑨ 既存推奨部品の登録更新作業を実施した。（2023 年 2 月実施）
  - ・ 既存部品分類中、断熱材：8 製品、開口部材（窓）：1 製品、開口部材（玄関ドア）：1 製品、家庭用浄水器：1 製品、浴室用水栓：1 製品の計 12 製品を追加した。

### 【総括】

・ 新規部品分類の追加及び既存部品分類の見直しを行い、合わせて推奨基準や環境性能等の強化・拡充項目の見直し、ホームページの更新を行った。これにより、推奨部品データベースの充実化を進めるとともに、ホームページ等からの検索・閲覧の際もわかりやすくすることができた。

### 3. 広報部会活動報告

#### (1) 環境と共生する家づくりに関する情報発信《新規・継続》

エンドユーザーに向けて、環境共生住宅の良さやそこでの暮らし方についての情報発信を引き続き実施した。また新たに協議会とSDGsを結びつけるような子供向けコンテンツの企画・検討を行った。

##### 【実施内容】

##### ① 居住者インタビュー（くらしかた・すまいかた）の実施

- ・経堂の杜（1月実施済/公開は令和5年度）

##### ② 子ども向けコンテンツの企画・検討

○令和3年度に実施した「環境共生住宅とは」の文言見直しに続き、kkj★KIDS内の「環境共生住宅とは」の文言や表現方法の見直しを行った。

○子ども向けの新規コンテンツのテーマを「環境共生住宅とSDGs」とし、制作に関する企画・検討を進めた。

- ・子どもの対象年齢：小学校6年生以上
- ・制作物

<R4年度内の公開>

環境共生住宅の説明資料/形態：A4サイズPDF（ダウンロード用資料）

- ・授業の副教材として利用できるシート

先生が子どもたちに「環境共生住宅とSDGs」について、説明できるようなプレゼンシートと子どもたちが自分で答えを考えて書くようなワークシートの2種類を作成

環境共生住宅とSDGsの繋がりを示す資料/形態：WEBページ

kkj★KIDSの1メニューとして「環境共生住宅とSDGs」を追加（kkj30周年パンフレットから「環境共生住宅とSDGs」の記述を子ども向けに書き直し）。

##### 【総括】

- ・子ども向けページ「kkj★KIDS」の文言の見直しと合わせてデザイン更新も行い、より分かりやすいコンテンツに刷新することができた。
- ・「環境共生住宅とSDGs」では、kkjとSDGsの関係性を示すWEBページの他に、小学高学年が「家と暮らし」を通じて環境問題を考えられるような副教材を制作した。

#### (2) 会員サービスの充実（環境共生に関する最新情報の発信）《継続》

見学会や交流セミナーの開催、機関誌「SYMBIOTIC HOUSING」の発行、会員専用情報の充実化を図り、より魅力的な会員サービスを提供できるような広報活動を行った。

##### (2)-1 見学会の開催

第1回では、地域住民との新しい価値の創出、最新の環境・設備技術やSDGs対応等の仕様とデザインで建てられた研修施設を見学し、オプションとして奈良県の森林資源の育成と技術開発・新製品開発などを行っている企業の視察と吉野林業を体感する見学会を実施した。

第2回では、「快適な住空間、万々に備えた住まい」を改修コンセプトとし「LINKED HOUSE—つながる家—」等を提案した実験集合住宅を見学し、オプションとして超高齢社会の課題を先取りする多世代共生型の健康スマートタウンの見学会を実施した。

計2回の見学会で延べ37名が参加した。

#### 【実施内容】

##### ① 第1回（10月24日実施済）

- ・大和ハウスグループ みらい価値共創センター（研修施設）  
説明のみ／大和ハウス工業 奈良工場 環境配慮型ショールーム
- ※オプション見学（10月25日 参加希望者のみ）

吉野かわかみ社中本社と吉野林業

- ・参加者数 25名（オプション見学会 9名）

##### ② 第2回（2月20日実施済）

- ・大阪ガス実験集合住宅 NEXT21
- ※オプション見学 Suita サステイナブル・スマートタウン
- ・参加者数 12名

#### 【総括】

- ・第1回では、風、太陽、水といった自然の要素を活かした技術や取り組みを採用するとともに、古（いにしえ）の歴史ある地という立地条件との関係性にも配慮した企業の研修施設の見学と、吉野杉を活用した建材や日用品等の開発、森林資源の育成や林業人材育成等の事業を展開している企業の取り組みを視察するとともに長い歴史をもつ吉野林業を体感することができた。
- ・第2回では、今後も増加することが見込まれている多彩な単身者世帯のこれからのライフスタイルを受け入れる住まいや究極の省エネ性と健康・快適性を両立した住まい、健康管理 IoT 住戸等を備えた近未来型実験集合住宅の見学と、街の消費エネルギーを実質再エネ100%で賄う再エネ100%タウン、防災レジリエンスタウン、多世代コミュニティタウン、健康増進ウェルネスタウン等のサステイナブルとスマートを実現する大規模複合開発の街を見学することができた。

#### (2)-2 交流セミナーの開催

第1回では、2025年の省エネ基準適合義務化や2030年の省エネ基準のZEHへの引き上げと義務化（予定）をふまえて今後ますます高まる住宅・建築物に関する対策の重要性をテーマとして、第2回では、脱炭素社会実現に向けた施策や取り組み、世代を超えたSDGsへの対応、ウクライナ情勢による様々な影響等、国内外の動向を見据え幅広い視点からの「新しい環境」変化への向き合い方をテーマとして、第3回では、環境的視点から建築・都市デザインを見直し自然とつながるデライトフルな建築を中小オフィスビルで展開した考え方や手法等をテーマとして、計3回のセミナーを開催し、延べ200名が参加した。

#### 【実施概要】

##### ① 第1回（7月26日実施済）

- ・テーマ：2050年脱炭素社会実現のためのZEB・ZEHの重要性

- ・講師：田辺 新一氏  
早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 建築学科 教授・工学博士
- ・参加者数 65 名
- ② 第 2 回 (1 月 30 日実施済)
  - ・テーマ：新しい環境変化への向き合い方
  - ・講師：竹中 宣雄氏  
ミサワホーム (株) 取締役 / (一社) 環境共生住宅推進協議会会長
  - ・参加者数 101 名
- ③ 第 3 回 (3 月 2 日実施済)
  - ・テーマ：「自然とつながる「デライトフル (歓びのある)」な建築  
～パッシブデザイン手法を取り入れた先進的オフィスの設計事例を通じて
  - ・講師：川島 範久氏  
川島範久建築設計事務所 主宰
  - ・参加者数 34 名

#### 【総括】

- ・第 1 回では、脱炭素社会の実現の必要性や重要性とこれに向けた戸建住宅、集合住宅、オフィスの ZEH、ZEB 化に関する海外動向を含めた取組み状況について、第 2 回では、震災やパンデミック、戦争等による環境変化によりライフスタイルが大きく変化することとその中で日本が向き合っている様々な課題の明確化について、第 3 回では、数々の住宅や中小オフィスの設計事例を通じて、地域の自然条件 (=気候) と伝統知 (=風土) となぜ、どのようにつながるか、その幅広い考え方や手法等について学ぶことができた。

#### (2)-3 技術研修交流会 (会員からの依頼により随時)

令和 4 年度は開催しなかった。

#### (2)-4 機関誌「SYMBIOTIC HOUSING」の発行 (1 回)

○No. 54 (7 月 6 日発行済)

- ・くらしかた すまいかた Vol. 31 『東川の家』
- ・研究・専門『カーボンニュートラルに向けたこれからの住宅・建築の役割』  
/下田 吉之氏 (大阪大学 大学院工学研究科 環境エネルギー工学専攻 教授)
- ・見学会報告レポート  
令和 3 年度第 1 回  
『地域に根ざす住まいと住まい方 ～つくばと沖縄の気候風土適応型住宅～』
- ・交流セミナー報告レポート  
令和 3 年度第 2 回  
『木のストローから生まれるもの～なぜ住宅会社がストローをつくる？ 反対や失敗を乗り越えた根性の開発実話～』  
/西口 彩乃氏 (株式会社 アキュラホーム SDGs 推進室 室長 広報課 主任 ウッドストロープロジェクト、奈良県生駒市 SDGs アンバサダー)

## (2)-5 kkj の活動情報発信（部会情報及び活動レポート等）

- ・kkj 会員を対象とした交流セミナーの動画配信（第1回、3回）

### 【総括】

- ・見学会を2回、交流セミナーは3回と、会員向けのイベントを同年よりも多く開催し、会員サービスの充実化に努めた。
- ・見学会や交流セミナーの内容を機関誌 SYMBIOTIC HOUSING としてまとめて発行することで、当日、参加できなかった会員にも実施内容を届けることができた。

## (3) 会員拡大や協議会の認知度向上等に向けた広報活動《新規・継続》

kkj サイトを中心に、協議会の活動や環境共生に関する最新情報を積極的に発信した。またサイトのアクセス解析結果を活かし、より効果的な広報・普及活動を展開した。

### 【実施内容】

#### ① kkj サイト解析結果を活かした広報・普及活動の展開

- ・4～12 月中の特にアクセス数の集中した日の詳細な解析を行い、訪問者が増えるきっかけや、kkj サイト訪問動機等について分析・整理し、具体的な活動計画案に繋げる活動を行った。

#### ○令和4年度の解析結果と実施内容

- ・「Google Classroom」からの流入が多い日があることから、kkj サイト内の既存コンテンツに加えて、授業で使えるような「環境共生住宅」に関する情報を新たに発信する。→子ども向けコンテンツの企画・制作に繋がった。

#### ○その他の解析結果と今後の広報・普及活動提案事項

- ・検索エンジン経由の流入を増やすには、読み物系のコンテンツが有効。
- ・新規コンテンツを検討する際には、新しいテーマだけでなく、普遍的な関心に応えられる内容であることで、長く愛され、継続して利用されるコンテンツとなる。
- ・検索エンジン経由の流入を増やすには、読み物系のコンテンツであることに加え、HOW TO（問題解決までを示した内容）であることが、訪問者の満足度を上げるために重要である。
- ・新規コンテンツを検討する際には、問題提起だけでなく、「kkj ならではの解決策」までを示した内容になるように配慮する。
- ・この解析結果を踏まえて次年度以降、特に関心の高い「防災」「台風」に関する読み物ページを作成、また kkj サイト内の埋もれているコンテンツの有効利用できるような広報・普及活動を行う予定である。

#### ② 地域からの便り

- ・『沖縄からの便り vol. 13』（10月公開済）

#### ③ kkj ホットニュースを活用した情報発信

- ・全体 11 件：正会員 3 件、情報会員 5 件、地域会員 1 件、事務局 2 件

#### ④ kkj サイトによる各種情報発信及びその管理

- ・随時更新



**【総括】**

- ・kkj サイトの継続的なアクセス解析を具体的な広報・普及活動に活かすことができた。
- ・定期的な更新作業を実施し、最新の情報発信に努めた。

## 4. 普及展開小委員会活動報告

### (1) 環境共生住宅 普及展開方策の検討

脱炭素型社会やSDGsに賛同する組織として、社会的要請やニーズに対応すべく体制や活動内容等の更なる充実を図るとともに、地域の工務店・設計事務所等を中心的な対象として、kkj活動の成果物（出版物やツール等）や蓄積している知見等を総合的・効果的に活用した環境共生住宅やパッシブデザインの普及に資する活動を展開し、会員の拡大を図る活動を実施した。

#### 【実施内容】

#### ① 「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の普及展開活動

- ・工務店、設計事務所を対象とした「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」オンラインセミナーを実施（全3回：7月5日・8月10日・10月12日 計17名）。
- ・プログラム：住宅の環境性能に関する背景  
外皮性能とお勧め建材ガイドの使い方  
一次エネルギー消費量性能とお勧め設備ガイドの使い方  
地域の気候特性を踏まえた環境共生住宅

#### ② 実務者向け「環境共生パッシブセミナー」による普及展開活動

- ・『フェノロジー作成ツール』『早わかり設計ガイド』『お勧め建材ガイド』『お勧め設備ガイド』『ESH パッシブデザインツール』を連携活用した工務店、設計事務所、学生等を対象としたオンラインセミナーを実施（11月22日 計22名）。
- ・プログラム：住宅を考える背景  
地域の気候特性の把握  
地域における環境共生手法と事例紹介  
パッシブデザインと住宅の温熱環境シミュレーション

#### ③ 月刊誌「建築技術」への原稿執筆

- ・建築技術 2023年1月号の特集（南雄三氏監修）『新環境住宅計画原論』の中で、「I. 大きな視野で考える環境住宅計画原論」のうち「環境共生で考える家づくり」に関する原稿（A4 2ページ）を執筆（発刊 12月17日）。

#### ④ 『ESH パッシブデザインツール』普及展開活動

- ・日本建築学会における論文発表により活動成果を報告。  
(論文2本 9月8日オンライン発表)  
テーマ：「開口部付属部材による暖冷房負荷の低減効果」  
その1 カーテン等の物性値の設定と単室モデルにおけるカーテン設置による暖冷房負荷への影響  
その2 複数室モデルにおけるカーテン設置の暖冷房負荷への影響
- ・ESH パッシブデザインツールの計算エンジン EnergyPlus のバージョンアップに対応した ESH パッシブデザインツールのバージョンアップを検討・実施。  
実施内容：ESH パッシブデザインツールに対応可能な  
EnergyPlus のバージョン調査  
ESH パッシブデザインツールバージョンアップ作業  
kkj ホームページへのアップ

⑤ 脱炭素社会推進会議への入会

- ・脱炭素社会へ向けた、提言等を行うことを目的として、日本建築学会等、22 団体で構成される団体へ入会し、活動内容を報告。

**【総括】**

- ・脱炭素社会や SDGs など時代の動向を見据え、様々な機会を通じて、地域の工務店・設計事務所及び学生を対象として、kkj が発行した冊子や開発したツールを連携活用した普及展開活動を行うことができた。

## 5. 事務局からの情報発信

### (1) 協議会活動に関するニュースリリースの発行《継続》

協議会活動や取り組み等について、住まいやまちづくりに関わる事業者、一般消費者等に広く認知してもらうため、協議会の活動成果に係るニュースリリースを発行し、積極的に報道機関等に対して情報発信を行った。

#### 【実施内容】

- ① kkj『お勧め建材ガイド』シリーズを刷新 脱炭素社会を目指す住まいづくりのための『お勧め建材ガイド』〈外皮6地域編〉と〈外皮7地域編〉を発行

(令和4年4月1日発表)

- ・住宅の省エネ基準への適合義務化や近い将来のZEHの標準化を見据え、H28年省エネ基準、ZEH基準、さらにワンランク上の断熱等性能を満たす断熱材・開口部等の組合せを紹介。
- ・6地域、7地域における充填断熱工法、外張断熱工法および付加断熱工法について、具体的な断熱建材・開口部材（環境共生住宅推奨部品）を提案。

- ② kkj『お勧め建材ガイド』シリーズと連携 脱炭素社会を目指す住まいづくりのための『お勧め設備ガイド』〈一次エネルギー消費量6地域編〉を発行

(令和4年4月1日発表)

- ・住宅の省エネ基準への適合義務化や近い将来のZEHの標準化を見据え、H28年省エネ基準やZEH基準の一次エネルギー消費性能を満たす設備機器の組合せを紹介。
- ・6地域で代表的に用いられる省エネ性能の高い設備機器を組合せ、一次エネルギー消費量の目安を紹介するとともに、具体的な環境共生住宅推奨部品を提案。

### (2) 会員メールマガジンによる情報提供《継続》

会員に関連のある国土交通省等の行政や住宅関連団体に係る最新情報を収集し、これらの情報を会員メールマガジンにて配信・提供した（令和4年4月～令和5年3月 延べ107回配信）。

### (3) ホットニュースによる会員情報提供《継続》

kkj 会員に限り、各々が実施するイベントやセミナー等の情報をkkj ホームページに掲載することができ、会員ホームページとリンクすることで会員情報の提供を広く発信した（令和4年4月～令和5年3月 延べ11回）。

## 6. 国庫補助事業

### (1) サステナブル建築物等先導事業（省 CO<sub>2</sub>先導型）に係る審査業務の実施

（国土交通省補助事業）《継続》

国土交通省における標記事業の審査業務を行う事業者として特定され、補助金交付に係る審査業務を実施した。

【業務実績】（令和4年4月～令和5年3月）

- ・ 建築部門・住宅部門 26 事業者
- ・ LCCM住宅部門 51 事業者
- ・ 賃貸住宅トップランナー事業者部門 2 事業者

### (2) サステナブル建築物等先導事業（気候風土適応型）に係る評価・審査業務の実施

（国土交通省補助事業）《継続》

国土交通省における標記事業の評価・審査業務を行う事業者として特定され、補助金交付に係る評価・審査業務を実施した。

【業務実績】（令和4年4月～令和5年3月）

- ・ 評価業務（採択） 3 事業者
- ・ 評価業務（事例集作成） 4 事業者
- ・ 審査業務 1 事業者

### (3) 既存建築物省エネ化推進事業に係る審査業務の実施

（国土交通省補助事業）《継続》

国土交通省における標記事業の審査業務を行う事業者として特定され、補助金交付に係る審査業務を実施した。

【業務実績】（令和4年4月～令和5年3月）

- ・ 省エネ改修工事 66 事業者
- ・ 省エネ診断・表示 9 事業者

### (4) 省エネ街区形成事業に係る審査業務の実施

（国土交通省補助事業）《新規》

国土交通省における標記事業の審査業務を行う事業者として特定され、補助金交付に係る審査業務を実施した。

### (5) 地域型住宅グリーン化事業・高度省エネ型事業に係る評価及び審査業務の実施

（国土交通省補助事業）《継続》

国土交通省における標記事業の評価・実施を行う事業者として特定され、補助金交付に係る評価・審査業務を実施した。

【業務実績】（令和4年4月～令和5年3月）

- ・ 評価業務（グループ採択） 668 グループ、10,520 事業者
- ・ 評価業務（ZEHのエネルギー使用量データ回収、分析等） 1,078 棟
- ・ 審査業務（ZEH、認定低炭素、性能向上計画認定） 4,769 棟

(6) 環境・ストック活用推進事業（調査、普及・広報および部分改修・部分 ZEH 改修モデル実証事業に関する事業）の実施

（国土交通省補助事業）《新規》

国土交通省における標記事業として企画提案が採択されたことを受けて、協議会内に学識経験者を含めた「作業部会」を組織し、以下事業の検討、情報発信等を行った。

**【事業名称】**

太陽光発電設備の設置に関する適切な情報提供の検討・整備・普及事業

**【実施内容】**

1) 太陽光発電設備の設置における現状・課題の整理

① 太陽光発電システム設置に関する既存資料の整理

- ・太陽光発電システムの設置に関する既存資料について整理した。
- ・多くの資料が太陽光発電システム側からみた設置に関する内容である。
- ・住宅への設置に関する内容の資料もいくつかあるが、主に新築住宅への設置に関するものが主であり、新築時に後載せ想定や既存住宅への設置に関して、住宅の設計時や住宅に対する備えといった観点からは十分に言及されているとはいえない状況である。

② 太陽光発電システム関連企業・団体等へのヒアリング

- ・太陽光発電システム設置に関する現状把握と課題抽出を行うため、関連企業・団体等、計 20 社・団体へのヒアリングを実施した。

2) 太陽光発電システムの設置に関する課題解決に向けた方向性の検討

- ・ヒアリングを通じて得られた太陽光発電システム設置に関し、「荷重」「防水」「防火」「施工」「情報提供」「点検・メンテナンス」「廃棄」「リサイクル」「問題点」について、それぞれ主な現状・課題、課題解決に向けた方向性について整理した。

3) 提供すべき情報の取りまとめ

① 戸建住宅の太陽光発電システム設置に関する Q & A の概要

- ・「太陽光発電システムの設置・施工に関する課題解決に向けた方向性の検討」で示した課題解決に向けた方向性に基づき、「新築住宅」「新築時後載せ想定」「既存住宅」それぞれについて、太陽光発電システムを設置する住宅の計画・設計、施工に関する留意事項を Q & A 形式で取りまとめた。
- ・ユーザー向けリーフレットについては、太陽光発電システムの基礎知識を記載した第 1 章の内容に基づき整理・作成した。
- ・「Q & A」の数は 80 問となった。

② 戸建住宅の太陽光発電システム設置に関する Q & A の主な目次構成

序 章 はじめに

第 1 章 太陽光発電システムについて

第 2 章 新築時に太陽光発電システムを設置する住宅の計画・設計上の検討・留意事項

- 第3章 新築時に将来的な太陽光発電システム後載せを想定する住宅の計画・設計上の検討・留意事項
  - 第4章 既存住宅に太陽光発電システムを設置する場合の検討・留意事項
  - 第5章 太陽光発電システムの設置後の維持管理・廃棄・リサイクルに関する検討・留意事項
- 参考情報・資料

【参考情報】kkj ウェブサイトでの成果物の公開

- ① 令和5年3月30日  
令和4年度国土交通省補助事業「太陽光発電設備の設置に関する適切な情報提供の検討・整備・普及事業」報告書(概要版)を公開
- ② 令和5年4月28日  
プレスリリース『戸建住宅の太陽光発電システム設置に関するQ&A』の公開